



# 女子栄養大学

高度な専門性と実践力が修得できる授業  
自由な発想を形にできる環境の充実で  
日本の食と健康に貢献する人材を育てる

## 女子栄養大学

<http://www.eiyo.ac.jp/>

坂戸キャンパス

所在地:埼玉県坂戸市千代田3-9-21

## 概要:

医師であった香川昇三・綾(計量カップや計量スプーン、レシピカードを考案したことで知られる)により、1933年に設立された家庭食養研究会を前身に、1940年の女子栄養学園、1950年の女子栄養短期大学の設立を経て、1960年には東京初の調理師学校となる香川調理師学校を設置。翌1961年に女子栄養大学が創設されました。同学は、実践栄養学科、保健栄養学科、食文化栄養学科の3学科と大学院を持ち、約2,000名の学生が学んでいます。その豊富な知見から、「女子栄養大学」を冠する本が多数発行され、産官学連携により貢献活動にも力を入れています。



食文化栄養学科 准教授  
ビジュアルコミュニケーション研究室  
平野覚堂氏



女子栄養大学 栄養学部  
食文化栄養学科 准教授  
健康情報科学研究室  
藤倉純子氏

「食による人々の健康の維持・改善」を建学の精神に掲げ、食・栄養・健康に関わる研究に取り組む女子栄養大学。1933年創立の家庭食養研究会を前身に、女子栄養学園、女子栄養短期大学、香川調理師学校の設立を経て、1961年に創設されました。埼玉県坂戸市のキャンパスで、1学部3学科と大学院を展開する同学では、約2,000名の学生が管理栄養士や臨床検査技師、看護教諭などの資格取得を目指し学んでいます。ソフトウェア環境においては、ETLA(高等教育機関向け包括ライセンス契約)により、最新のAdobe Creative Cloudが全学導入され、コンピューター実習室やフリースペース「iパーク」で、授業や研究などに活用されています。同学でデザインや情報処理の授業を担当する、栄養学部食文化栄養学科准教授の平野覚堂氏と藤倉純子氏に、教育への取り組み方をうかがいました。

## 伝えることの重要性を知り、“おもしろいこと”を実現する手段

女子栄養大学では、かなり以前からアドビのクリエイティブツールを導入していました。その背景には、「食」に関する資格や知識を核に、食を中心とした情報発信やデジタル表現ツールの存在を知る機会を提供することで、学生に自分が活躍できる分野が、食に携わるサービス分野、教育分野、クリエイティブ分野など、多岐にわたることを自覚させる意図があります。「メディアの特性を知り、それを活用して食や栄養に関するさまざまなことを表現し、伝えていくことの重要性を理解しているからこそ、自らの可能性を広げ、多様な職種に進む学生が多いと考えています。直接料理を作らなくても、食と栄養の大切さを伝えることは可能です」と、食・栄養・健康に関する専門的な理解と幅広い視野を基礎に、情報の発信や企画・制作・マネージメントについて学ぶ食文化栄養学科の平野覚堂准教授は語ります。ETLAによるCreative Cloudアプリケーションの全学導入も、その一環として進められました。合計144台のパソコンを備えるコンピューター実習室やフリースペース「iパーク」のほか、映像スタジオや各研究室に最新のアプリケーションが導入され、学生たちが研究や課題に取り組んでいます。

12年前に同学に赴任してきた平野准教授は、赴任後まもなく、ある学生に同学で何を学びたいかを聞いたといいます。「そこで返ってきたのが『おもしろいことをやりたい』という言葉でした。具体的に何を行いたいのか、学生自身が見つけられていなかったのです」。デザインやグラフィックデザインの授業を担当していた平野准教授は、テクニックを教えるよりも、学生が“おもしろいこと”を見つけた時に、それを表現するためのスキルを身につける授業を行うことにしたそうです。「近年ではチョコレートや水をテーマにした展覧会が開催されるなど、食という分野のさまざまな切り口に触れる機会が多くなっています。そうした刺激を受け、たとえば食育関連の冊子で葉っぱのイラストを使いたいと葉の陰影をどうつければよいかなどの具体的な質問をする学生が増えてきています」。

食や栄養、健康といった柱になる分野のカリキュラムのみならず、情報発信の実践をデザイン的な観点や最新機器で活かす授業を多く取り入れることで、情報発信や表現をするためのデジタルツールの存在を知らしめることで、創造性も併せ持つ即戦力となれるような高いレベルでの食のプロフェッショナルになれる優秀な人材の育成を行っています。

## 自主性を活かしてクリエイティブな発想を表現するツールを修得

食文化栄養学科では、デザインの基礎を学ぶため、1年生前期に「情報処理実習」、後期に「デザイン論」を約8割の学生が履修しています。「WordやExcelは使えるものの、Adobe IllustratorやAdobe Photoshopなどには初めて触れる学生が多いため、まずはどんなことができるかという説明から始めます」と「情報処理実習」を担当する藤倉純子准教授。1年生ではIllustratorを使用した描画から、色彩計画やタイポグラフィ、画像と文字のレイアウトなどの基礎を学習。2年生で履修できる「コンピューターグラフィックス活用実習」では、Photoshopでの画像の色調補正や、Illustratorで描画した画像にストーリーをつけ、Adobe InDesignを使用して割り付け、1冊の本を作るという授業を行っています。

「デザイン論」や「コンピューターグラフィックス活用実習」などの授業を行う平野准教授は、「授業ではひとつの“モノ”を完成させる工程を体験させています。後の研究や仕事でデザインの必要な要素が必要となった際に、ここで学んだ知識が役立つようになってくれば嬉しいです」と語ってくれました。

また、同学科では、オープンキャンパス時に、研究内容をパネルにまとめて展示。2014年度は『ぎりぎり食文化展』と題し、食べ物の香り、パッケージ、世界の給食などにスポットを当てて発表しました。「Illustratorなどで制作したパネルに興味を持ち、期間中何度も足を運んでくれる人も。反応を間近に感じたことで学生たちも表現することの楽しさを学んだようです」と平野准教授。2015年度には学生から自主的に展示の企画も立ち上がり、クリエイティブな発想を表現するためのツールとして、アドビ製品が活用されています。

## デザインツールを活用し、研究課題に取り組む

1、2年生でデザインの基礎を学んだ同学科の学生は、そのスキルを活かし、3、4年生で実習や卒業制作など、それぞれの研究課題に取り組んでいます。ゼミによっては、Adobe Dreamweaverを使用して、食の安全や女子高校生向けにダイエットの危険性を訴えるWebサイトを制作することも。

3年後期から1年半をかけて全員が履修する「食文化栄養学実習」では、学生自らが決めたテーマで、6、12月に開催される2回の発表会で研究の成果を発表しています。食育にまつわる子ども向けの絵本や展示パネルの制作を行うほか、発表当日に配布されるレジュメも学生自らが制作を担当。フォーマット化されたデザインに文字を流し込んだり、画像やイラストを挿入し、印刷入稿するまでの一連の工程すべてを行っています。

また、藤倉准教授は、文化栄養学科創設の頃から同学には最新のアドビ製品が揃っていたといいます。「工科大学の先生がうらやましがらるほどの設備が導入されているのは、同学が表現を具現化する手段の充実を重要視していたから。その考えは現在も引き継がれており、考えを形にするツールが用意されていることで、自由な発想が出やすい環境であると感じています」。

## 多様な現代社会に適應する専門知識と実践力を持つ人材を育成

管理栄養士をはじめ臨床検査技師、養護教諭、家庭科教諭等、さまざまな資格を有するプロフェッショナルを育成するだけでなく、新しいものや発想を柔軟に受け入れ、それを形にするための環境の充実に力を入れている女子栄養大学。企業の第一線で活躍した経験や他大学での教鞭など、さまざまなキャリアを持つ教員陣が、社会に出てから需要の高いスキルの修得を積極的に授業に取り入れ、学生たちを指導しています。

「食により人間の健康の維持・改善を図る」という建学の理念のもと、「食は生命なり」という創設者・香川綾が遺した言葉が表すように、同学では人間の健康的な生活の基盤となる食や栄養を通して社会貢献を行うという姿勢を貫き、現代社会の多様性に適應する専門知識と実践力をバランス良く身につけた、日本の食文化と健康の一端を担う多彩な人材を輩出しています。



坂戸キャンパス6号館3階にあるコンピューター実習室。最新のAdobe Creative Cloudが導入されたパソコンが、合計144台完備されている。授業がない時間帯は、学生が自由に使用可能。

### 使用したアドビ製品

- ・ Adobe Creative Cloud

### 製品活用の主な利点

- ・ クリエイティブな発想を形にすることができるようになる
- ・ 社会で即戦力となるスキルが身につく

### 製品に関する詳細は

<http://www.adobe.com/jp/jos/education/admin/etla.html> をご覧ください。

### お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー (AAD: Adobe Advanced Dealer) でお買い求めください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビシステムのホームページ (<http://www.adobe.com/jp/>) で入手できます。アカデミック版および教育機関向け販売プログラムに関する詳細は、アドビ アカデミック コールセンター (tel.03-5350-7133) へお問い合わせください。